

✎ イ。-一般入試について-

さて、一般入試も始まり、第一志望の大学を目指し、直前まで知識を詰め込んでいることでしょうか。ここまで皆さんは学校・塾に通い、自宅学習し、公共交通機関でも暗記物をやってきたのではないのでしょうか。ここが最後の踏ん張りどころです。今までの努力の成果を最大限出して合格をつかみ取りましょう。自分の力を最大限発揮するための方法としては、是非キャリア通信1月号を参照してください。

…とは言ったものの、やはりどうしても緊張してしまう人もいます。そんなときはルーティンを崩さず、焦らずに。大学受験は人生80年の中の1年です。肩の力を抜いて臨みましょう。

蛇足ですが、私が受験生だった時の心構えをここに記そうと思います。それは、「前後左右の受験生を倒せば受かる」ということです。自分対大多数で怖気づいてしまうのではなく、最高でも4人に対象を絞ることによって心理的な負担を軽減することに成功しました。あくまで一例なので、参考にする程度でお願いします。

✎ モ。-模試を受ける際の注意点について-

2/7に2年次生を対象とした共通テスト模試が実施されました。その際にマークシートの記入の仕方本番でやると無効になりかねないことや、受験カードの記入でもったいないことをやっている生徒がいましたので、改めて受験上の注意点をお伝えします。

・太枠の必ず記入する部分に必要な事項を記入していない

→名前やクラス番号等が未記入だと、自分の成績に紐づけされず、志望校の合格判定も受験科目不足で出ません。見直しの際にしっかり記入できているか確認しておきましょう。今回は監督の先生が訂正するように促しましたが、同様のことを本番で行うと採点されない可能性もあります。必ず最初に必要事項を記入しましょう。

【今回あった事例】

- ・クラス番号の未記入
- ・学校所在地や学校名の未記入
- ・学校所在地や学校名に自分の名前を記入

・マークシートを雑に塗る

→テストの採点はマークシートを機械が読み込む形で行われます。そのため、問題用紙に記入していた自己採点用の回答が正解していたとしても、マークの方法が雑だと不正解になる可能性が高いです。マークする時間が煩わしい人は、先の丸い鉛筆でマークすることを心掛けましょう。シャープンでのマークは線が細い分時間がかかります。また、機械が読み取ってくれない可能性も少なからずあります。昨今ではマークシートで回答する方式が一般的です。適当に塗っていると痛い目を見ますので注意しましょう。

・受験カード裏面の志望校の欄に空欄がある

→せっかく模試を受けているのに、その結果を最大限活用しないのはもったいないです。第一志望の大学を中心に、そこから偏差値や大学群（GMARCHや日東駒専・大東亜帝国など）ごとにいくつか志望校を決め、記入しましょう。取得可能な資格で大学・学部を選択するのもOKです。（私はここらへんを適当にしていたので公民の教員免許取れませんでした。）休日を割いて模試を受けているので、模試を有効活用して本番に備えましょう。

・第1解答科目の回答を第2解答科目のマークシートに記入している

→これは地理総合/歴史総合/公共（以下地歴公）・理科基礎2科目受験者向けの内容です。例えば地歴公では地理総合・歴史総合・公共の中から2科目選び、第1回答科目のマークシートに2科目記入する形で受験する方式がとられています。しかし、今回勘違いが多く、地歴公の場合、例えば公共を第1解答科目のマークシートに記入し、地理総合を第2解答科目のマークシートに記入している生徒が多々いました。この場合だと採点されない

可能性が高いので、十分に気を付けるようにしてください。また、理社の第1解答科目は私立大学の共通テスト利用で使いますので、自分の得意な教科にしましょう。(筆者の場合は歴史総合/日本史探究です。)

実は共通テスト・私立入試まで一年を切っています。今までとこれからの積み重ねが大事なので、すぐ行動に移しましょう。今ここでやらなければ、来年必ず泣きを見ます。まずは授業・直近の模試の復習から始めてみて、疑問があれば教科の先生に聞いてみましょう。学問は、「千里の道も一歩から」です。

📝 コ。- 考査と指定校推薦について -

1、2年生の皆さんは3月の初週に年度末考査が始まります。一年の締めくくりとなる考査で、次年度からステップアップした内容を学びます。年度末考査の勉強で基礎を盤石なものとして、次年度の学習に備えましょう。

加えて、指定校推薦を見据えた生徒の皆さんは特に気合を入れてがんばるところです。というのも、指定校推薦に出願するにはいくつかクリアしなければならないものがあります。それが以下の項目のものです。

- ① 直近の成績会議に基づく3年間の欠席が10日以内であること、かつ、遅刻・早退が合わせて20回以内であること
- ② 未履修科目がないこと
- ③ 当該年次で特別指導を受けていないこと
- ④ 指定の申請書類を期日までに提出し、内容が十分であること
- ⑤ 上級学校が指定した基準を満たしていること。

(『令和7年度版 進路の手引き』p.11より一部編集して抜粋)

特に考査が関わってくるものが②と⑤です。(出席という観点では①もですが。)②は言わずもがなです。日々の授業に参加し、出された課題も提出し、テストでも点数をしっかりとる。これも日々の予習復習が大事な要素になってきます。

⑤は特に重要です。欠席の日数や必要資格・3年間の評定などが各大学で設定されています。以下の例は今年度のとある大学の募集人数と応募条件です。

【例：T 大学政経学部法律政治学科・経済学科】

募集人数：3名

応募条件：評定 3.7 以上・欠席日数 15 日以内

【例：C 大学工学部機械工学科】

募集人数：学科枠 1 名・全体枠 1 名 (女子が含まれる場合は 2 名まで)

応募条件：評定 3.9 以上

…いかがでしょうか。評定 3.7 や 3.9 など、なかなか厳しい条件じゃないでしょうか。この応募条件に記載されている評定より、自分の評定が低い場合はそもそも応募ができません。また、基準を満たしさえすれば出願できるわけではないです。学校内で募集人数を超える応募があった場合、より成績がいい生徒が優先されます。この少ない募集人数を決めるための選考を勝ち抜かなければならないのです。そのためにはどうすればいいのでしょうか。今のうちから考査でいい点数を取り、提出物をしっかり提出し、良い評定を取っておけばいいのです。来年度・再来年度になって、「あのときいい点数を取ってれば…」・「あのとき提出物を出せていれば…」となってももう遅いのです。今のうちにやれることをやり、自分の進路に対する選択肢を多く用意しておきましょう。

📝 メ。- 名言について -

「学問は人格に移る」オヴィディウス『ヘロイデス』より